

# 第四回 荒川区区政改革懇談会

## グループ討議会議録：山吹

### 【日時】

10月5日（水）13:30～16:00

### 【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ2：中間発表に向けた内容を話し合おう

### 【場所】

荒川区役所 議員待遇者室

ステップ3：今日の話し合いの結果を確認しよう

ステップ4：その他

### ステップ1：はじめに

#### 【前回の話し合いの内容確認】

コンサルタントにより、今回の話し合いの内容説明、前回の話し合いの内容確認、議事録の確認がなされた。

### ステップ2：中間発表に向けた内容を話し合おう

これまでの議論の内容を確認しながら、議論を続けることにした。議論の内容は、「産業・経済」、「まちづくり」、「教育」、「コミュニティ」、「文化」、「区政」の6項目の他に、「基本構想を実現させるために何が必要か」の1項目を追加することにした。

#### 【産業・経済】

- 荒川区教育委員会で発行している「荒川百景」に掲載されている名所・旧跡を訪ねたことがあるが、表示の看板だけで、実物の石碑等が存在していなかったり、看板からかなり遠くにあったりした。観光資源として活用するのは、難しい面がある。
- 相撲の土俵の荒木田土で有名な荒木田原や、尾久の渡し等、探せば、名所旧跡がある。
- 花の木橋の親柱が、ビルの谷間に存在しているが、行政の方で大切に保存してほしい。他にも、歴史にうずもれた旧跡を発掘して、保存してほしい。
- 全国的に見ると、あまり有名な名所・史跡はないので、観光産業の目玉にするのは難しいのではないか。
- 荒川区の歴史に詳しい作家等に、行政の方から依頼し、歴史を記録にとどめてもらったかどうか。
- 皇太子ご誕生の時に、全国から皇居に神輿が出たことがあったが、南千住の神輿はすばらしく、他の地域から来た神輿を担ぐ人が足を止めて見てしまうほどだった。そのようなすばらしいものが、荒川区にはあるので、PRをもっと上手にしてほしい。
- 駅の中に写真等が展示してあるが、駅のような公共の場所で、荒川区のPRをすれば、お金

- ・ もかからず、浸透していくのではないか。
- ・ 都電は観光の目玉になりうる資源だと思う。
- ・ 「メッキといえば町屋」というような、知る人ぞ知る荒川区の産業・匠の職人をもっとPRすれば、その職につきたい若者が集まってくるのではないか。
- ・ 匠の伝統工芸品等の展示イベントは区報などに載せるだけでなく、もっと手広くPRしてほしい。
- ・ 遊休施設を利用して、伝統工芸品の展示を催したり、職人の技をみせるようにしたら良いのではないか。
- ・ 新しい住民が増えて、中小企業が減っていく状況の中で、伝統工芸の後継者の育成は必要だが、難しい面がある。

### 【まちづくり】

- ・ 下町の伝統を残しながら、再開発をしていくことが、行政の腕の見せ所なのではないか。
- ・ 下町の風景を残すためには景観条例等も考えられるが、制定は難しいのではないか。
- ・ これからは、安全の問題が重要になってくる。安全な荒川区をつくり、アピールができれば、人が集まってくる。きれいな街づくりのために、たばこのポイ捨て禁止等の条例をもっと厳しくするのもひとつの方法ではないか。
- ・ いままでの数々の条例を反省、評価し、問題点があったら、改正していくことは必要だと思う。
- ・ ポイ捨て条例の状況を見ると、条例を守るための灰皿・喫煙場所の増設などの工夫が足りないと思う。
- ・ 放置自転車等の状況を見ると、行政の意識の改革だけではなく、区民の意識の改革も必要なのではないか。また対策は広域で実施する必要がある。
- ・ 再開発はどんどん進んでいるが、車が通れないような狭い路地や電柱、下水管、ガス管などの整備も、防災面から必要だと思う。
- ・ 電線の地中化も必要だと思う。
- ・ 防災対策の面で、高層ビルは防火壁になる等の意味があるが、一方で風が通らなくなるなどの問題がある。
- ・ 安全・安心・快適な荒川区を目標にして、実現させて、PRしていきたい。
- ・ 荒川区は「防災都市宣言」を打ち出しているが、もっと認識が広がるようにPRしていきたい。
- ・ 荒川のPRのために、都電、隅田川を生かさないと手はない。
- ・ 区民主導の街づくりするためには区政の改革も必要である。区民主導だけではなく、区側の積極的な受け入れ態勢も必要なのではないか。

### 【教育】

- ・ 教育現場の諸問題に真剣に対処することが必要である。
- ・ 登校拒否、ニート等の問題は、問題が小さい段階からの対処が必要である。
- ・ 問題がある子供には、社会のルールを厳しく教えることが必要である。

- ・ 現場の教員の声が届くように、教育委員会と学校の間を考えたのも必要である。
- ・ 民間人が学校教育の中に入るのも良いのではないか。
- ・ 教員が規制されず、独自で指導できる雰囲気があれば良いのではないか。
- ・ 教員が置かれている状況は厳しいものがある。教育は教員だけでは難しい面がある。教員をバックアップする地域住民の会(親父の会等)は以前上手く行ったと思うし、教員の方にも心強いと思う。
- ・ 荒川で力をいれてほしい事は、子供達の基礎学力の向上である。
- ・ 親・子供・教員・教育委員会の4者 + 地域社会の連携が必要である。

## 【コミュニティ】

- ・ マンション建築ラッシュで、人間関係が希薄になっている面がある。町会などのコミュニティ活動に消極的な人が、参加できるような活動内容を考えることが必要である。
- ・ 防災面でも、町会の存在意義はある。
- ・ 昔からの地域住民とマンションに住んでいる新しい住民との関わりについては、行政側が対処して、新しいルールを作る必要がある。
- ・ マンションの管理組合と町内会の連携が必要である。
- ・ 荒川の人的資源を利用するために、ボランティア活動をしやすい環境づくりが必要である。又、そのためには、行政側の協力も必要である。
- ・ ボランティア活動の拠点づくりを置きたい。
- ・ ボランティア活動をするための施設利用ができる回数が少ない。
- ・ ボランティア活動は、活動する団体の自主性に任せた方がよいが、行政のバックアップは必要である。
- ・ 在住外国人に対して、それぞれの国の国民性を理解しあうのには時間がかかる。荒川区は、外国人が日本で生活していくためのレクチャー、日本語教育等を積極的に行っていると思う。

## 【区政】

- ・ 区の遊休施設を資産として考え、有効活用してほしい。
- ・ 行政側の積極的な情報公開が必要である。
- ・ 行政側が努力しているのは理解しているが、もっと区民に認識してもらえるように、PRが必要である。
- ・ 区報・CATVだけではなく、もっとPRの仕方を見直した方がよい。
- ・ 小さな区政というよりも、区民に開かれた区政をめざすことが重要である。

## 【実現するために何が必要か】

- ・ 様々な場面で、行政に対する評価が必要である。
- ・ 市民の意見を訴えることができる独立したオンブズマンシステムを、自主的に設立するのも良いのではないだろうか。

- ・ 基本構想の評価と反省をして、結果を踏まえた行動が行える体制をつくることを徹底したい。

#### 【その他】

- ・ 今後の議論のテーマに、環境問題と区民の健康づくりも組み入れてほしい。

### ステップ3：今日の話し合いの結果を確認しよう

コンサルタントにより、本日の話し合いの内容確認が行われた。次回までに今日の話し合いを基に草案を作成して、更に、委員から意見を伺うことにした。

環境問題と健康づくりについては、中間発表会以降議論することになった。

### ステップ4：その他

#### 【中間報告会のお知らせ】

日程の確認と中間報告会の発表者の選出を行った。

#### 【次回について】

次回日程は、11月7日(月) 13:30より。